

遊戯王GX 依と衣を操
りし者

南太

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ある日、影霊衣と影依が好きな少年白波大輝（しらなみだいき）が遊戯王の世界へ転生する話

それは大輝の人生を大きく変えることとなる

はたして遊戯王GXでどのような展開が待ち受けているのか

この作品は作者初投稿ですので、とても良い出来とは言えないものになりますが、私は、パソコンで遊戯王の小説を書いてみたいと同時に文章力が高くなればなど思っ

れから物語を書いていこうと思います。

どうか読者の方々は温かい目で読んでいただけると私の心の救いになります。

批判などは受け付けません。鵜呑みしやすいタイプの人間ですので、メンタルがやられないようにするために批判はフルシカトという処置を取らせていただきますゆえ読者様のご理解よろしくお願い申し上げます。

文章に関して誤字脱字があれば教えていただけるとより読者様が読みやすい文章が書けるとおもいますのでよろしくお願いいたします。

これからよろしくお願いたします。

目次

第1話	大輝目覚めます	1
第2話	実技試験	8
第3話	大輝まさかの一人部屋	23
第4話	V S 絵名	31

第1話 大輝目覚めます

ある日の晩

???

「ふああああ。寝よ。」

ある一室で白波大輝しらなみだいきが眠そうにつぶやいた。

大輝

「明日も早いし、なんせ学校終われば遊戯王ができるや」

大輝は遊戯王が大好きな高校生である。

大輝

「さあ寝るか。」

大輝は深い眠りについた

チュンチュン、チュンチュン

鳥の声が外から聞こえてくる

大輝

「んあああ、よく寝た。」

うん？なんだこれ」

大輝は部屋が変わっているのに驚きが隠せないでいた

大輝

「俺衣替えなんてしたっけ？

まあいいや、学校あるし着替えよ…な、なんだこれ」

大輝の机の上になんとデュエルディスクがあつたのだ

大輝

「なんでデュエルディスクが？」

大輝が考え込んでいると部屋の外から女性の声が聞こえた

???

「大輝、入るよ」

その女性は発言と同時にドアを開けた

大輝

「誰だお前」

大輝がそういうのも無理はない

なぜかという大輝はこの女性と面識がないのだから

???

「うげえ… ひどお、大輝流石に寝ぼけ過ぎじゃない？」

絵名だよ、大輝の幼馴染の黒崎くろさき絵名えなだよ」

大輝は絵名について何一切わからなかったが、それ以上に何故絵名が自分の部屋にいるのが気になった

大輝

「で、なんでここにいろんだ？」

大輝は気になっていたことを絵名に聞いた

絵名

「今日はアカデミアの試験だからだよ」

大輝

「は？」

大輝は絵名の言ったことに耳を疑った

大輝

「え、ごめん。」

もう一回言って？」

絵名

「だ〜か〜ら〜、今日はアカデミアの試験だよって」

絵名は大輝のことを不思議そうに見る

大輝

「(え、待てよ。俺って遊戯王の世界に来ちゃったの!?)」

わかった、わかった。あと、アカデミアの試験だからって俺の部屋来る理由にはならないよね?

もう一回聞くけどなんで来たの?」

絵名

「え、だって大輝一応私の家で一緒に住んでるじゃん」

絵名の言葉に大輝はまた絵名の言葉に耳を疑った

大輝

「え、ごめん。また聞くけど俺ってなんで一緒に住んでんだっけ」

大輝はこの世界の自分のことがわかっていないため絵名に質問をしてみた

大輝

「なるほど、だから俺は絵名と一緒に家に住んでるんだな。

よくわかった、アカデミアの試験に行くんだっけ?」

絵名

「そうだよ！」

早く準備しないと遅れちゃうよ!!」

絵名は準備をするよう大輝を催促する

大輝

「はいはい、準備するからとりあえず部屋から出る

準備できたら呼ぶから」

めんどくさそうに大輝は絵名に言う

絵名

「わかった！」

私はリビングで待ってるから、リビングに来てね!!」

そういうと絵名は部屋を出ていった

大輝

「はあ、デツキは：：とあったあった、やっぱりシャドルと影霊衣しか勝たん」

大輝は素晴らしい手提げカバンの中にデツキと筆記用具を入れて着替えをして部屋を

出た

絵名

「あ、大輝やつと来たね」

リビングに行くとき絵名と絵名に似た女性がソファに座ってテレビを見ていた
???

「あら、大輝君おはよう」

大輝

「おはようございます、えっと…」

絵名

「大輝、お母さんのこと忘れちゃったの？」

大輝

「い、いや…忘れてないよ」

「ちよつと、ボケてただけだよ」

絵名のお母さん

「あらあらその年から物忘れしてちゃ年取ったときしんどいわよ？」

絵名と絵名のお母さんは笑っていた

絵名

「あ!!もう時間!!いくよ、大輝!!」

大輝

「え、あ、うお!」

絵名は大輝の手を引っ張り外へと駆け出していた

第2話 実技試験

大輝は絵名に連れられ会場に到着した

大輝

「はあはあ、んっああ…げほっげほっ」

大輝はずつと走っていたせいか息を切らせて膝に手をつけている

絵名

「あはは…大輝ごめんね、ついしやぎすぎちゃった」

絵名はえへへと笑いながら大輝に謝った

大輝

「はあ…はあ…久しぶりにこんなに走ったわ

まあ会場についてたことだし受付行くか…ほら行くぞ絵名」

大輝は絵名をおいてさきさき歩いていく

絵名

「あっ!!待ってよ!!大輝!!」

大輝たちは受付を済ませたあと筆記試験を受けるため教室に入った

大輝

「へえ女子と男子テスト別なんだな

やっぱ女子って全員オベリスクブルー確定？」

独り言を言っていると教室に試験官らしき人が入ってきた

試験官

「はいそれでは用紙配布から90分きっちり時間を使って解くこと

カンニングその他不正行為が発覚した場合は即座に退出してもらいます。

それと同時に午後からの実技試験は受けることができません。

はい、それでは用紙を配布します。」

大輝

「(筆記ってそういうえばどんな内容なんだろう)」

試験官

「全員に用紙が回りましたか？」

それでは、テスト始め!!」

大輝はスラスラとテストを解いていく

ただ、大輝は通常モンスターのフレーバーテキストを覚えていなかったのでも苦
勞していた

試験官

「手を止めて筆記用具その他各自荷物を片付けて席に座っていなさい。」

チャイムがなると同時に試験官が受験生に指示を出した

試験官

「本日の試験は以上です。」

今日には筆記の結果がわかり、君たちのところに郵便で送りますので明日、郵便で届
いた受験番号と各々試験に挑むデツキを持って来てください。

受験番号と一緒に実技試験時間も載せているので間に合うように来てください。

それでは、お疲れ様でした。」

試験官が教室から出ていった

大輝

「さあ、絵名と合流して帰るか」

大輝は絵名と合流して家に帰った

その日の夜

絵名

「大輝合格してて良かったね！」

夕方届いた郵便の内容は絵名、大輝共に合格であった

絵名の受験番号は15番、大輝の受験番号は30番と倍くらい離れていた

大輝

「フリーバーテキスト答えられなかったのが絵名と差をつけちゃったな」

大輝は未だに筆記の内容について反省していた

絵名

「合格したらみんな一緒だから明日も朝から早いしもう寝よ？」

絵名が目を擦りながら大輝に言った

大輝

「そうだな、寝ようか」

大輝と絵名はそれぞれ部屋に行き眠りについた

翌日

大輝

「ふあああああ、よく寝た」

大輝が目を覚ました

大輝

「アッキ調整でもしよ」

机の上でカードを広げる大輝であった

試験会場まではまた絵名に引つ張られ大輝はしんどそうにしていた

試験会場

試験官

「受験番号15番から30番の受験者は決闘場デュエルフィールドに上がりなさい」

大輝 「お、絵名も同じタイミングで実技受けるんだな」

絵名

「そうだね!!試験楽しみだよ!!」

歩いて上がっていく大輝とは正反対で絵名は駆け足で決闘場に上がっていった

試験官

「受験番号30番 白波大輝君だね

決闘の勝敗は合格にあまり関係ないが勝ったほうが試験に合格しやすくなるから自分の出せる実力を私にぶつけなさい」

試験官の言葉を聞いた瞬間、大輝はディスクを構えた

大輝

「それでは、よろしくお願ひします。

試験官さん」

試験官

「さあ来なさい」

大輝・試験官

「決闘!!」
デュエル

大輝 LP4000 H5

モンスター0 魔法罨0

試験官 LP4000 H5

モンスター0 魔法罨0

試験官

「受験生の君から始めなさい」

試験官は大輝に先行を譲った

大輝

「俺のターン、ドロロー」

大輝は手札を見て考える

大輝

「俺は、モンスターをセット

さらに、リバースカードを2枚セットしてターン終了します」

大輝 LP4000 H3

モンスター1 魔法罨2

試験官

「えらく消極的だな。」

そんなんでは私に勝てないぞ？

私のターン、ドロー！」

試験官は勢い良くカードを引いた

試験官

「私は手札から【神獣王バルバロス】を通常召喚!!

このモンスターはリリース無しで召喚できる！

ただし、この方法で召喚した場合攻撃力が1900になる。

さらに、速攻魔法【禁じられた聖杯】を発動し【神獣王バルバロス】を対象にしてエンドフェイズまで効果を無効にし攻撃力を400上げる【神獣王バルバロス】は効果を無効にしたことで攻撃力が3000に戻りさらに400上がっているため攻撃力は3400だ!!」

3400の攻撃力を見た他の受験生は口々に「だめだ」「終わったな」などと言っている

試験官

「さらに装備カード【メテオ・ストライク】を装備して【神獣王バルバロス】は守備モン

スターを攻撃した時、攻撃力が守備力を超えていたならその数値分相手にダメージを与える！

そしてバトルフェイズに入る!!」

大輝

「メインフェイズ終了時、罨カード【おちかげのうごめき墮ち影の蠢き】を発動！

このカードはデッキから【シャドール】カードを1枚墓地に送る。

俺はデッキから【シャドール・ヘッジホッグ】を墓地に送る。」

大輝の行動に試験官は不思議に思った

試験官

「なぜこのタイミングで墓地にカードを…」

大輝

「まあ見ててください、カードを墓地に送った後、自分フィールドの裏側表示の【シャドール】モンスターを任意の数選んで表側守備表示にする。

俺はフィールドに裏側守備表示でいる【シャドール・リザード】を表側守備表示に変更」

大輝のフィールドにいかにも糸で揺らされながら歩いているトカゲみたいなモンスターが出てきた

試験官

「カードを墓地に送って表側に… まさか、リバースモンスター!!」

大輝

「そのとおりです」

処理後、墓地に送られた「シャドール・ヘッジホッグ」の効果でチェイン1にしてフィールドで反転した「シャドール・リザード」の効果でチェイン2で発動!

チェイン2の「シャドール・リザード」の効果でフィールドのモンスターを1体破壊できる。

対象は「神獣王バルバロス」だ、さらに墓地に送った「シャドール・ヘッジホッグ」の効果で発動してデッキから「シャドール」モンスターを手札に加える。

俺が加えるのは「シャドール・ビースト」だ。」

試験官

「まさか、「神獣王バルバロス」がすぐいなくなるとは思わなかったよ。

私はリバースカードを1枚セットしてターン終了だ。」

大輝

「エンドフェイズに速攻魔法【サイクロン】を発動してそのセットカードを破壊します。」

大輝は淡々と試験官のフィールドを荒らしていく

試験官

「フィールドに何もなし：君のターンだ」

試験官 LP4000 H2

モンスター0 魔法罫0

大輝

「俺のターン、ドロー、試験官さん」

大輝は試験官に話しかける

試験官

「どうしたんだい？」

試験官は話しかけてきた大輝を不思議に思っていた

大輝

「今から行うのは俺の1ターンキルです」

大輝は笑いながら言う

試験官

「できるものならしてみなさい」

大輝

「では、今から行きますよ。」

俺は「マスマティシヤン」を通常召喚、そして効果発動、デツキからレベル4以下のモンスターを墓地に送る」

試験官

「墓地に送るだけじゃなんの意味もないぞ?」

試験官は不機嫌な態度で大輝に注意をする

大輝

「俺はデツキから「シャドール・ヘッジホッグ」を墓地に送る、さらに、墓地に送られた「シャドール・ヘッジホッグ」の効果でデツキから「シャドール・リザード」を手札に加える。

それでは、今からワンキルの準備をしていきましょう。

手札から魔法カード「融合」を発動して手札の「シャドール・ビースト」とフィールドの「マスマティシヤン」で融合召喚!!

「シャドール」モンスター+地属性モンスターで現れ出よ! 「エルシャドール・シエキナーガ」!!」

白と黒で構成され台座か何かに座っている女性ぽいモンスターがフィールドに現れた

試験官

「何だこのモンスターは…」

試験官は初めて見るモンスターにびっくりしている

大輝

「墓地に闇属性が3体のみ存在する場合このカードは特殊召喚できる!!」

現れよ【ダーク・アームド・ドラゴン】!!」

試験官は顔が真っ青になった

片方は未知のモンスター、もう片方は出されるだけでゲームエンドまで持っていけるモンスターを出されライフを0にされるのが想像できた

大輝

「もうバトルフェイズに行きましょう。」

バトルフェイズ【ダーク・アームド・ドラゴン】と【エルシャドール・シエキナーガ】でダイレクトアタック!!」

試験官 LP4000—2800—2600—1400

試験官は大輝に握手を求めた

試験官

「君の実力がわかる良い決闘だったよ」

大輝

「ありがとうございます」

試験官

「君は間違いなく合格になるはずだ。

また君と決闘できるのを楽しみにしているよ。」

大輝

「入学したらお世話になります。

それでは、失礼いたします。」

大輝は決闘場から降りていきもうすでに椅子に座っていた絵名を連れ家に帰った会場を出る途中すぐく走っている男の子とすれ違ったが大輝は大変そうだなとしか思っていないかった

部屋

大輝

「アカデミア入学になったけどこれからどうなっていくのかな。

試験終わった後帰る途中十代とすれ違うしけど俺クロノス先生見てないんだよね…

もしかしてアニメとは内容違ったりするんかな？

「考えても無駄だからもう寝よ。」
大輝は眠りについたのであった

第3話 大輝まさかの一人部屋

アカデミア入学当日

大輝は今アカデミア行きの船に乗っている

珍しく大輝の隣には絵名の姿はなく、大輝はただただ海風にあたっている

大輝

「はあ、アカデミア入学は良いものの原作と違ったらどうしよう」

大輝は自分の知っている遊戯王GXではなかったらどうしようか考えていた

大輝

「でも違ったら違うでアナザーストーリーってことで楽しめますかね」

大輝が独り言を言っているとどこからかアナウンスが鳴り響く

アナウンスー

「連絡します。」

もう少ししたらアカデミアに到着いたします。

アカデミアの生徒の皆様は各自荷物を下ろす準備をしてください。」

大輝は部屋に行くついでに船酔いで倒れた絵名のところに行った

大輝

「やつと着いたかく、だいぶ揺らされたな」

大輝が伸びをしていると後ろから絵名がゆっくり大輝のもとに来た

絵名

「うげえ…めっちゃ気分悪い…」

絵名の顔が真っ青になっている

大輝

「そりゃ船乗った瞬間からはしやぎまくった挙げ句携帯で写真撮りまくって後にカードばら撒いて遊んでたからそんなになるんだよ」

絵名

「だって、初めての船だったもん!!」

大輝

「まあそんなに元気だったら早めに集合場所に行こか」

絵名

「は〜い」

大輝は早足で会場へと向かった

会場にて

鮫島校長

「え〜これから君たちは希望に満ち溢れた学生生活を送っていくこととなりますが、」

この鮫島校長の話、始まってからもうすでに2時間は経っている

大輝たち含め新入生はというと女子生徒は頑張ってるが、男子生徒はほとんど眠っている

鮫島校長先生

「それでは、学生生活楽しんでください。」

以上で閉式の言葉とさせていただきます。」

生徒全員

「閉式の言葉に2時間もかけたんかい!!」
生徒全員心の中ではそうツツコミをしていた

絵名

《大輝、ライイエローだったね!!》

でも、大輝は実力があるからすぐオベリスクブルーに上がれるよ!!》

大輝は学校から配布されたPDAを使って絵名と電話をしていた

大輝

「でも、月1試験勝たないといけないしなあ

とてつもなく面倒くさいんよね」

絵名

《それはしょうがないけどとりあえず頑張ろうね!!》

それじゃ、そろそろ集会があるから電話切るね!

また明日話そうね!!》

大輝は電話を切った後自分の部屋を見ていた

大輝

「なんで俺だけ一人部屋なの…」

まあ一人のほうが楽だから良いんだけどね」

大輝は学校上の問題で相部屋ではなく一人で過ごすことになった

大輝

「一人なのは良いけど部屋広いな」

大輝は部屋の整理をしだした

そのせいで集会に遅れて先生に怒られた

夜、大輝の部屋にて

大輝

「シャドールどうしようかな」

大輝はシャドールデッキの内容について考えていた

大輝

「流石に、『ドラグマ』とか入れるのはやばいし頼みの『シャドール・ファルコン』はチューナーだから入れれないしどうしようかな。

やっぱり『妖精伝姫』にしとくかあ」

大輝はシャドールに入れる光属性に悩んでいた

大輝

「【超電磁タートル】は確定なんやけどねえ」

大輝がデツキをいじっている時電話がなり相手を見ると絵名だった

大輝

「はいはい」

絵名

《あ、大輝!!》

「明日暇?》

大輝

「明日ねえ暇やけど」

絵名

《明日ねえ》

絵名がひと呼吸入れる

大輝

「明日がどうしたん？」

大輝が気になって絵名に聞く

絵名

《廃墟に行かない？》

絵名がいきなり廃墟に行こうと言い出したのだ

ちなみに大輝は怖いのが苦手でありホラー映画を見ると怖さで失神してしまうのだ

大輝

「ヤダ」

絵名

《じゃあ肝試し行こ!!》

大輝

「ヤダ」

絵名

《じゃあ明日昼休み決闘して大輝が負けたら廃墟に行く。

もし、もしだよ!!

大輝が勝つたら廃墟に行かないって言う賭け決闘しよ!!

これ絶対ね、異論は認めん!!

じゃあね!!》

絵名は言うことだけ言うと急に電話を切った

大輝

「はあ、めんどくさあいつのデッキなんなんだろう

とりあえずなんか対策カード入れとくか」

大輝はめんどくさいと言いながら翌朝までデッキの調整をしていた

第4話 VS絵名

絵名と大輝が電話をした翌日

絵名

「私が勝つたら一緒に廃墟行くよ!!」

大輝

「だから嫌だっつーの」

大輝と絵名はアカデミアの決闘場を借りて廃墟に行くか行かないかの決闘を始めようとしている

理由だけ聞くとくだらない話だが、大輝は本当に嫌らしい

しかも、決闘場には新入生の決闘を見るためにたくさんの生徒が来ている

大輝

「だからってこんな人呼ぶこともなかったじゃん…」

絵名

「だって、友達に話したら気になるって言われて

ちよつとだけなら人いてもいいでしょって思ったんだけど思ったより多かった」

あははと絵名が笑いながら謝っていた
???

「それでは、初めて良いかしら？」

黒崎さん？」

大輝は声の聞こえたほうを見るとなんとそこには大輝の見たことある人が立っていた

絵名

「はい!!」

響みどり先生!!」

大輝

「響みどり!?!」

響先生

「あら、何驚いているの？」

ラーイエローの白波大輝君?」

大輝は漫画版GXに出てくる人物を見てここはもしかしたら漫画版の世界にいるのでは、と考えている

大輝

「いいえ、あのプロデュエリスト響紅葉の姉がこの学校におられると思わなくて」

響先生

「あら、この学校にいるのは入学式に教員紹介で紹介されたわよ？」

大輝くんもしかして寝てたわね？」

響先生はやれやれといった表情で大輝に聞いている

大輝

「あ、すみません…」

ボーツとしていたので」

響先生

「私の授業中に寝てたら許さないわよ？」

響先生は笑顔で大輝に言っている

大輝

「は、はい…」

肝に銘じておきます」

響先生

「よろしい、それではこれよりライイエロー白波大輝とオベリスクブルー黒崎絵名の決

闘を始めます!!」

後攻先行はコイントスにより決定いたします。」

そう言い響先生は親指でコインを弾いた

響先生

「コイントスの結果、先行は黒崎絵名から始めます。

それでは、決闘はじめ!!」

絵名、大輝

「決闘!!」

大輝 LP4000 H5

モンスター0 魔法罫0

絵名 LP4000 H5

モンスター0 魔法罫0

絵名

「私のターン、ドロー!」

私は【終末の騎士】を通常召喚!!

【終末の騎士】の召喚時効果発動!!

デッキから闇属性モンスター【カオス・ベトレイヤー】を墓地に送るよ!!」

大輝は墓地に送られた【カオス・ベトレイヤー】の効果を見ている

大輝

「なるほど、絵名のデッキはカオスデッキか」

絵名

「リバースカードを3枚セットしてターン終了!!」

絵名 LP4000 H2

モンスター1【終末の騎士】 魔法罫3

大輝

「俺のターン、ドロロー」

大輝は絵名の場を見て考える

大輝

「俺は【妖精伝姫ーカグヤ】を通常召喚!!」

大輝に場に青髪ロングでちよつとおどおどしている狐のモンスターが出てきた

絵名

「攻撃力1850かちよつと高いなあ」

大輝

「それだけじゃない、【妖精伝姫ーカグヤ】の効果発動!!」

召喚に成功した時、デッキから攻撃力1850の魔法族モンスターを手札に加える

!!
!!

絵名

「召喚時に発動するのはそつちだけじゃないよ!!

召喚時罫カード【奈落の落とし穴】を発動!!

このカードはモンスターの召喚時に発動できて攻撃力1500以上のモンスターが召喚、特殊召喚された時、そのモンスターを破壊して除外する!!

もちろん、【妖精伝姫ーカグヤ】の攻撃力は1850で1500以上だからそのまま【妖精伝姫ーカグヤ】には退場してもらおうよ!!」

大輝

「そう来るか、なら【奈落の落とし穴】にチェーンして【妖精伝姫ーカグヤ】の2つ目の効果発動!!」

絵名

「もう1つ効果あるの!?!」

大輝

「もう1つの効果は相手の場のモンスター1体を対象にとって発動してそのモンスターと自身を手札に戻す効果だ。」

ちなみにこの効果に相手はデッキから対象に取られたモンスターと同名のモンス

ターをデツキ、融合デツキから墓地に送ればこの効果は無効にできる!!

(でも、【終末の騎士】は制限カードだ!!)

チエーンはあるか？」

絵名

「無いよ。」

そんなに強い効果があると思わなかったけど、私はデツキから【終末の騎士】をデツキから墓地に送ることで【妖精伝姫ーカグヤ】の効果は無効にするよ!!」

大輝は絵名が2枚めの【終末の騎士】をデツキから墓地に送っていることにびっくりしている

大輝

「え!?!」

【終末の騎士】2枚目!?!」

絵名

「何驚いてるの?」

【終末の騎士】は無制限だから3枚入れれるよ?」

大輝は自分が元いた世界とは禁止制限が違っているのを把握していなかった

そして、この決闘が終わった後部屋に戻って確認しようと心の中で決めた

大輝

「そ、そうだったかな。」

ちよつと把握してなかった…

じゃ、「妖精伝姫ーカグヤ」の効果は無効になり、絵名の「奈落の落とし穴」で除外される。

そして、「妖精伝姫ーカグヤ」の召喚時の効果でデッキから「妖精伝姫ーシラユキ」を手札に加える。」

大輝は戦術が狂ったと愚痴りながら効果処理をしていた

絵名

「大輝の場にモンスターが居ない、これはチャンスだね」

絵名は大輝の場にモンスターが居なくなったため安心していった

大輝

「だが、忘れたか？」

俺のデッキは「融合」を使うデッキだぞ？」

そう大輝のデッキは融合モンスターで戦うデッキなので手札次第ではモンスターを場に出すことができる

絵名

「でも、手札にモンスターと【融合】がなかったら意味ないよ!!」

大輝

「そうだな、でも手札がまだ減っていないんだ、素材があるかもしれないぞ？」

慢心するのは早いな、絵名。

俺は手札から速攻魔法【神の写し身との接触】エルシャドール・フュージョンを発動!!

このカードは手札、場から【シャドール】融合モンスターの素材を墓地に送ることで融合召喚できる。」

絵名、その他観客

「「「速攻魔法の【融合】!?!?!」」」

絵名

「そんなカードがあるなんて知らなかった」

大輝

「俺は、手札から【シャドール・ヘッジホッグ】と【妖精伝姫―シラユキ】を墓地に送る。

【シャドール】モンスター+光属性モンスターで融合召喚!!

現われよ、合言葉を探し求めるもの!!

【エルシャドール・ネフィリム】!!」

大輝の場に巨大な女性のモンスターが現れた

そのモンスターの周りにはたくさん糸が伸びている

絵名

「これが、大輝のエースモンスター？」

大輝

「そうだ、俺のデッキのエースだ。」

召喚成功時「シャドール・ヘッジホッグ」の効果でチェーン1「エルシャドール・ネフィリム」の効果でチェーン2で発動!!」

絵名

「それに、チェーンして罨カード【激流葬】を発動!!」

今出てきた「エルシャドール・ネフィリム」にも退場してもらおうよ!!」

絵名の【激流葬】で絵名の場の【終末の騎士】と大輝の場の【エルシャドール・ネフィリム】は上から流れてきた水に勢い良く流されていった

大輝

「ちえ、チェーン2の【エルシャドール・ネフィリム】の効果でデッキから【シャドール】カードを墓地に送る。」

俺は【シャドール・ドラゴン】を墓地に送り、チェーン1の【シャドール・ヘッジホッグ】の効果でデッキから【シャドール】モンスターを手札に加えることができる。

俺が加えるのは「シャドール・リザード」だ。」

絵名

「また、フィールド空になっちゃったね」

大輝

「そうだな、さらに処理後、墓地に送られた【エルシャドール・ネフィリム】の効果をチェーン1にしてさらに墓地に送られた【シャドール・ドラゴン】の効果をチェーン2で発動!!」

絵名

「まだ効果があったの?!」

大輝

「こいつらは死んでもなお俺を助けてくれる。」

チェーン2の【シャドール・ドラゴン】の効果で場の魔法罨カードを対象にとって破壊することができる。

俺は絵名の場のセットカードを対象にする。

チェーン1の【エルシャドール・ネフィリム】の効果で墓地から【シャドール】魔法罨カードを手札に戻すことができる。

俺は墓地に存在する【神の写し身との接触^{エルシャドール・フュージョン}】を対象にする!!」

絵名

「そんな効果があったなんて…」

大輝

「じゃ、効果処理でチェーン2の【シャドール・ドラゴン】の効果で対象に取ったセットカードが破壊されチェーン1の【エルシャドール・ネフイリム】の効果でエルシャドール・フュージョン【神の写し身との接触】を手札に戻す」

大輝は破壊したカードを確認するとそれは【リビングデットの呼び声】だった

大輝

「(あぶねえ、破壊しなかったらエンドフェイズでまた墓地肥やしされてた)」

俺はカードを1枚セットこれでターン終了だ。」

大輝 LP4000 H4

モンスター0 魔法罫1

絵名

「お互い場が寂しいね」

大輝

「散々荒らしまくったくせに何言ってるんだ」

絵名

「えへへ、じゃあ行くよ!!」

私のターン、ドロロー!!」

大輝

「(さあどう来るんだろ)」

大輝は絵名がどう動いてくるのかを見ている

絵名

「私は手札から魔法カード【早すぎた埋葬】を発動!!」

ライフ800をコストにして墓地から【終末の騎士】を特殊召喚する!!」

絵名 LP4000↓3200

大輝

「それにチェーンして速攻魔法【エルシャドール・フュージョン神の写し身との接触】を発動!!」

絵名

「げ、また融合されるの…。」

大輝

「俺は手札の【シャドール・リザード】と【マスマティシヤン】で融合召喚!!」

現われよ、【エルシャドール・シエキナーガ】!!」

絵名

「このモンスターは試験のときに出てきたモンスター!!」

けど関係ないよ、特殊召喚成功時【終末の騎士】の効果発動!!」

絵名が【終末の騎士】の効果が発動した瞬間デッキに糸が絡まりデッキが触れなくなりそれと同時に【終末の騎士】が糸に巻きつけられ苦しんで消えていった

絵名

「何があつたの!？」

絵名がびつくりしていると大輝が口を開いた

大輝

「【終末の騎士】の効果発動時に【エルシャドール・シエキナーガ】の効果を使わせてもらった。

このモンスターは特殊召喚したモンスターが効果を発動した時その効果を無効にしそのモンスターを破壊することができる。

でもその後、手札から【シャドール】モンスターを墓地に送らないといけないけどな。」
そういう大輝は【シャドール・ビースト】を墓地に送る

絵名

「そんな効果があつたなんて【シャドール】ってテーマ強いね」

大輝

「ああ、俺はこいつらがだいすきだ。

さつき墓地に送られた【シャドール・ビースト】の効果を発動する。」

絵名

「次はどんな効果なの？」

大輝

「デツキからードローするって効果だ。」

「素晴らしい大輝はデツキからカードを引く

絵名

「どうしよ、じゃ私は手札から魔法カード【クロス・ソウル】を発動!!」

大輝の場の【エルシャドール・シエキナーガ】を対象にとつて発動!!

そのモンスターを生贄にしてモンスターを召喚できる!!」

大輝

「何を召喚する気だ？」

「けど良いのか？」

【エルシャドール・シエキナーガ】も墓地に送られると墓地から【シャドール】魔法罫カードを手札に加えることができるぞ?」

絵名

「それでも良いよ!!」

私は大輝の場の「エルシャドール・シエキナーガ」を生贄にして生贄召喚!!
ヴァニティ・デビル

「虚無魔人」を場に出すよ!!」

大輝は冷や汗をかいてしまった

流石に、特殊召喚できなくされるモンスターが出てくると思わなかったからだ

大輝

「虚無魔人」だと!?!」
ヴァニティ・デビル

絵名

「これでお得意の融合召喚ができないよ!!」

大輝

「(これじゃ、やばい)

でも墓地に送られた「エルシャドール・シエキナーガ」の効果で墓地の
エルシャドール・フュージョン
 「神の写し身との接触」を手札に加える。」

絵名

「クロス・ソウル」を使ったターンはバトルフェイズに行けないからこのままターン終了するよ」

絵名 LP3200 H0

モンスター1 ヴァニティ・デビル【虚無魔人】 魔法罨0

絵名

「大輝にこのモンスターが倒せるかな？」

大輝

「俺のデッキには対処できるカードが何枚も入っているんだそんな満身では足元救われるぞ?」

絵名

「でも、融合召喚できないでしょ?」

大輝

「やってみないと分からないさ」

俺のターン、ドロー!!

(とは言ったもののどうすることかいね…)

とりあえず、凌ぐか)

俺はモンスターをセット、これでターン終了だ。」

大輝 LP4000 H3

モンスター1 魔法罨0

絵名

「言ってたわりに何もしないんだね」

絵名はがっかりと言った表情で大輝に話しかけた

大輝

「まあまあターンを続けな」

絵名

「じゃあ私は手札から【強欲なツボ】を発動。

デッキから2枚ドロウするよ」

大輝

「(ここ)で手札補充カードか)」

絵名

「私もすること無いから(ここ)でバトルフェイズ!!」

ヴァニティ・デビル

【虚無魔人】でセットモンスターに攻撃!!」

ヴァニティ・デビル

【虚無魔人】が攻撃しようとした瞬間、糸と金具に巻きつけられ消えていった

絵名

ヴァニティ・デビル

「私の【虚無魔人】が!!」

大輝

「絵名が攻撃したセットモンスターは【シャドール・リザード】だ。

このモンスターは表側になった時、場のモンスターを1体破壊することができる。

俺は【ヴァニティー・デビル虚無魔人】を対象にして破壊した。」

絵名は【ヴァニティー・デビル虚無魔人】が早く対処されてしまったのにシヨックを受けていた

絵名

「こんなに早く居なくなると思ってた…」

けどメインフェイズ2にカードを1枚セットしてターン終了!!」

絵名 LP3200 HI

モンスター0 魔法罫1

大輝

「シャドールにはこういう破壊するカードが何体かいる。

だから、俺はそんな盤面でも乗り越えてきた。」

絵名

「でも私は負ける気はないよ!!」

大輝

「俺も負ける気はないな!!」

俺のターン、ドロー!!

俺は手札から【妖精伝姫ーカグヤ】を通常召喚!!

さらに召喚時効果発動してデツキから「妖精伝姫ーカグヤ」を手札に加える！

さらに、手札から速攻魔法「神の写し身との接触」エルシャドール・フュージョンを発動する！！

手札から「シャドール・ヘッジホッグ」と「妖精伝姫ーカグヤ」を墓地に送って再び現われよ！！

【エルシャドール・ネフィリム】！！

絵名

「また出てきた…」

大輝

「さらに融合素材にされた「シャドール・ヘッジホッグ」の効果を手チェーン1、場に出た【エルシャドール・ネフィリム】の効果を手チェーン2にして発動！！

チェーン2の【エルシャドール・ネフィリム】の効果でデツキから「シャドール・ドラゴン」を墓地に送り、チェーン1の【シャドール・ヘッジホッグ】の効果でデツキから【シャドール・ビースト】を手札に加える。」

絵名

「しかもこんなに展開されてる…」

大輝

「さらに処理後墓地に送られた【シャドール・ドラゴン】の効果で絵名の場のセットカー

ドを対象にとって破壊する!!」

絵名

「その効果にチェインして罫カード【戦線復帰】を発動!!」

墓地の【カオス・ベトレイヤー】を対象にして守備表示で特殊召喚するよ!!」

絵名の場にあぐらをかいた骸骨が出てきた

大輝

「ちえ、そのモンスターか」

絵名

「さらに特殊召喚に成功した【カオス・ベトレイヤー】の効果を発動!!」

相手の墓地のモンスターを1体対象にとって除外することができる!!」

私は【妖精伝姫ーシラユキ】を除外するよ!!」

絵名は決闘中に墓地に行くモンスターの効果を見ていたため【妖精伝姫ーシラユキ】の効果を把握していた

大輝

「使わされるのは嫌だけど使うしか無いか。

俺は今対象に取られた【妖精伝姫ーシラユキ】の効果を墓地のカード7枚除外して発

動!!」

このカードを墓地から特殊召喚する!!

それによって【カオス・ベトレイヤー】の効果は不発に終わる。」

絵名

「これでもう【妖精伝姫ーシラユキ】の効果は使えないね!!」

大輝

「それじゃあ、バトルフェイズ!!」

【エルシャドール・ネフィリム】で【カオス・ベトレイヤー】に攻撃宣言!!

さらに攻撃を行うダメージステップ時効果発動!!」

絵名

「このタイミングでどんな効果があるの?」

大輝

「それはだな、【エルシャドール・ネフィリム】は特殊召喚された相手モンスターと戦うダメージステップ時にそのモンスターを問答無用で破壊するという効果なんだ。」

絵名

「じゃ、戦闘破壊体制があっても無駄なんだね。」

大輝

「そうだな、【カオス・ベトレイヤー】にはそんな効果がないから普通に破壊されるな。」

行け、「エルシャドール・ネフィリム」!!」

「エルシャドール・ネフィリム」は「カオス・ベトレイヤー」に糸を巻きつけるとその糸をきつくしていき「カオス・ベトレイヤー」を八つ裂きにした

絵名

「私のライフはあと3200。」

大輝の場合には1850の「妖精伝姫ーカグヤ」と「妖精伝姫ーシラユキ」がいるんだよね。

結局大輝のライフを削ることができなかつたなあ残念。」

大輝

「挑戦だったら何回でも受けて立つさ、ただ今回の廃墟だけは阻止するためにちよつとだけやる気を出しただけさ。」

じゃあ決闘中に長話するのもあれだからもう終わらせるぞ。

俺は「妖精伝姫ーシラユキ」と「妖精伝姫ーカグヤ」で絵名にダイレクトアタック!!」

絵名 LP3200↓500

響先生

「この決闘、ラーイエロー白波大輝の勝ちとします!!」

大輝

「楽しい決闘だったよ、ありがとう」

絵名

「い、いや今回廃墟行けなくて残念だなあ、そうだ!!」

明日のお昼ご飯、大輝に払ってもらお!!」

絵名は「じゃあね」というと決闘場から出ていった

大輝

「やれやれ、元気な奴め」

それだけ言い大輝も会場を後にした

その途中廊下である女性に話しかけられた

???

「ちよつといいかしら」

大輝

「ん？」

「なんか用か？」

大輝は声のした方を向くとそこには金髪ロングの身長の高い女性が立っていた

???

「あなた、とても強いのね。」

大輝

「褒めてくれるのは嬉しいがまずは名乗ろうぜ。

俺はさつきも響先生に紹介してもらったが白波大輝だ。

（まあ名乗られなくても名前は知ってるんだが）」

???

「あら、ごめんなさい。

私は天上院明日香よ。」

大輝

「で、天上院が俺に何のようだ？」

大輝は気になったので明日香に聞いた

明日香

「私のことは明日香でいいわよ。

あなたの幼馴染の絵名からあなたのことを聞いてたからちよつと気になってね。」

大輝

「そっか、うちの絵名がお世話になっております」

大輝が急にお辞儀をしたため明日香もびっくりして「あ、こちらこそ」と返している

外から見たら変な絵面だ

明日香

「私も今度あなたと決闘したいのだけれど相手してもらえる？」

大輝

「いいよ。」

明日決闘場に予約取れるか聞いておくよ」

明日香

「そう、ありがとう!!」

またそのときはよろしくね!!」

大輝

「ああ、よろしく」

大輝は明日香に手を降ると歩いて寮に戻った

その最中大輝は

大輝

「(絵名の友達って明日香だったのか)」

と考え事をいろいろしていた